



PDCAが回らない8つの理由

【Plan】

- 1 目標・計画を忘れる
- 2 目的・目標が不明確・達成できそうにない
- 3 実行できる経営計画になっていない

【Do】

- 4 日々の行動に落とし込まれていない
- 5 腹落ち感がなく、抵抗感をもつ社員がいる

【Check&Action】

- 6 振り返る時間・仕組みが無い
- 7 ネガティブな気持ちで「C」Check:確認
「A」ADJUST:調整をおこなっている
- 8 計画・実行することは、「仮説・検証のサイクルを
回す」ことであるという意識が薄い

《行動が続かない理由》

- ①考えたビジョン・目標が実は盛り上がらない
- ②ビジョン・目標につながる戦略・戦術なのか？と希望や確信が持てず、腹落ちしない
- ③現状維持でいい、失敗したくないという自分の内なる声
- ④周りに反対の声があったり、協力者、応援者、伴走者がいなくて心が折れる
- ⑤以上の結果、自分は信念が弱いとあきらめてしまう

皆さんそれぞれに
当てる理由は
違うかもしれませんが。

行動しないと進まない。
それはわかっていても
行動できないということも
ありますよね。

取り組む内容を決める

- 1 自社・自分のお店のビジョンや目標(売上・利益など)から、取り組むテーマ(項目)を考える
- 2 売上を上げる視点(選ばれる理由やPR・リピーターづくり) から、取り組むテーマを考える
- 3 繁忙期・閑散期や歳時記(入学式・クリスマスなど)を意識して、取り組むテーマを考える
- 4 その他、自社・自分のお店にとって必要なこと(スタッフの育成など)から、取り組むテーマを考える

付箋の書き方

- 5 付箋1枚に1つの行動を書き、その付箋を見て自分やメンバーがすぐに動けるくらいまで行動を分解する(岩を砕く)
- 6 付箋には具体的な行動のほか、目標値や〆切など、数字にすることを意識する

確認

- 7 横と縦に見て、実践できそうか？を確認する

横：取り組む内容に対する行動が分解できているか？
縦：忙しい月(繁忙期)・暇な月(閑散期)に合わせて
行動が振り分けられているか？

- 8 ガントチャート式経営計画で書かれた行動を実践すれば、自分の目標(売上と利益)が達成できそうか？、達成するために足りない行動はないか？を確認し追加する

振り返り(CHECKとADJUST)

- 9 終わった付箋には横線を引いて完了とする(外してしまうと、来年の同じ時期の参考にできない)
- 10 必要に応じて、来年のための対策(次はこうしよう！、ここに注意！など)を記載する
- 11 次の1ヶ月～3ヶ月に向けて、作成と同じように付箋を追加・移動しながら、計画を再度立てる
- 12 付箋に書いていても、実行できなかった項目は、一歩進むために何が必要か、行動を更に分解する
(岩をもっと砕く)

目標・計画を忘れる

経営計画を作成した後、日々の業務に戻ると、目の前のことでバタバタして、P29にあるとおり、目標や経営計画が頭の中から無くなってしまいます。忘れても思い出せる習慣・仕組みが必要です。

目的・目標が不明確

目的とは「何のために」するのか？目標とは「何をどこまで・いくらまで」。この目的・目標のことを計画作成時にしっかり考えられていないと、後から見ても、行動できないことがあります。

実行できる経営計画になっていない

P56であるとおりの経営計画が数値計画中心だと、その達成の為に「何を」「どう」頑張っているのか、作成した本人も周りのスタッフも分からないことがあります。ガントチャート式経営計画でしっかり分解した具体的な行動になっていることが大切です。

日々の行動に落とし込まれていない

毎日の日常業務で忙しさによって、経営計画でおこなうことが疎かになる事があります。P110にあるとおりの、ガントチャート式経営計画を定期的に見て、日々のTODOリストや週間・月間スケジュール帳へ転記し、日々の行動に落とし込むことが重要です。

腹落ち感がなく、抵抗感をもつ社員がいる

社員が多い中小企業では、経営計画に対して腹落ち感(納得感)がなく、抵抗感をもつ社員がいることがあります。その理由の1つとして、現状維持が楽、失敗したくないという気持ちを社員が持っている場合があります。その気持ちが強いほど、経営計画を作っても実行に移せません。社員と「目的」と「目標」、そしてその背景などを社員が理解してもらう、密なコミュニケーションは重要です。

振り返る時間・仕組みが無い

経営者と話をすると、「忙しくて経営計画を実行する時間が無い、経営計画を見る時間がない」といった時間に関するお悩みをお伺いすることがあります。そこで振り返るために、自分の時間を自らのスケジュールに予約することは重要です。

ネガティブな気持ちで「C」Check:確認

「A」ADJUST:調整をおこなっている

計画を振り返る際には、達成・実行できなかった人の「犯人捜し」になったり、時には、できなかった自分への自己嫌悪になってしまうことがあります。そこで、「なぜできなかったのか?」というネガティブな気持ちを切り替えて、「どうしたらできるのか?」というポジティブな気持ちに切り替えて考えることが重要です。

計画・実行することは、「仮説・検証のサイクルを回す」ことであるという意識が薄い

計画して実行して成功する。これが理想のサイクルですが、しかし現実には必ずしも思った通りになるわけではありません。時には失敗することもあります。計画はあくまで仮説です。仮説とは「たぶん、こうすれば上手くいくだろう」という、仮の答えです。それを実行して、上手くいったか、上手くいかなかったのかを実行を通じて検証するのです。

実行して上手くいかなかった場合は、計画がおかしかったということ、どうやったら成果が出せるか?という視点でもう一度、計画、すなわち仮説を考えていくことが重要です。